

2020年度 グローバル地域文化学部自己点検評価報告

I. 教育活動

2020年度に開講した主な科目について記す。なお、2018年度より、2018年度以降生対象の新カリキュラムがスタートしているため、主に新カリキュラムについて記載する。

①必修科目（演習系）：1年次対象の「グローバル地域文化導入セミナー」と「グローバル地域文化入門セミナー」（旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門セミナー」は2年次対象）では、文献読解、文献検索の方法、批判的思考、問いの立て方、発表の方法など、大学での学びの基礎を鍛えた。また、3年次対象の「グローバル地域文化発展セミナー」、4年次対象の「グローバル地域文化専門セミナー」では、卒業論文の執筆に向け、各セミナーにおいて基本文献の輪読をさせたり、各自のテーマを掘り下げ、先行研究を批判的に読み込ませたりするなどした。また4年次の学生には「卒業論文」の履修も課し、担当教員が卒業論文の執筆のための個別指導を行った。その結果、186名が卒業論文の提出・審査を経て、合格と判定された（うち3名は春学期末に提出）。

②必修科目（講義系）：1年次対象として「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」を開講した。また、1年次対象として「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門 I・II」（旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」とし、2年次対象）を開講した。「グローバル地域文化論」と「グローバル・スタディーズ論」は、コース横断科目であり、グローバルなレベルで生じている事象や問題を扱いつつ、グローバル地域文化論に関する基礎的な講義を行った。また、「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門 I・II」は、3コースそれぞれに科目を設置し、各対象地域の現代事情など学生が関心を持って学べるようなトピックを取り上げた。

③選択必修科目（スタディ・アブロード科目）：学部独自科目として「海外インターンシップ」と「海外語学プログラム（英語）」を開講しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれも不開講であった。そこで、3年次生以上（2018年度以前生）で、かつ2021年度卒業の可否がかかっている選択必修科目B群未履修者に対して特別措置を講じることとなった。そこで、「留学とキャリア形成」に特別措置対象者用クラスを増設し、その履修・単位取得により、選択必修科目B群（スタディ・アブロード科目群）の卒業要件を満たすものとし

た。併せて「外国語による科目」、または選択科目 D 群（2016 年度以前生は選択科目 B 群）の「〇〇語で読む地域文化研究」から 2 単位以上取得することを推奨した。

④選択必修科目（講義系）：留学経験を将来のキャリアに生かすため、留学経験を踏まえてグ

ローバル人材となるための資質について考え、議論し、キャリア計画を立てることを支援する科目である「留学とキャリア形成－1」（通常クラス）では、1 名の学生が履修した。また、「留学とキャリア形成－2」（特別措置対象者用クラス）では、34 名の学生が履修した

⑤選択科目：コースごとに当該地域の歴史的形成や文化の多様性、現代の課題など多岐にわたる内容の科目を開講した。学生は各自の関心に応じ、コース横断的にこれらの科目を履修した。

⑥その他：海外留学をする学生が計画的に卒業単位を取得できるよう、2017 年度より、1 セメスターの登録最高単位数を増やしている。また、外部試験結果による英語科目の単位認定を実施している。

II. FD 活動

本学部 FD 委員会の活動として、2020 年 12 月に 1 年次生（2020 年度生）と三年次生（2018 年度生）を対象に学部教育への満足度・要望などを尋ねるアンケートを実施した。コロナ禍のため従来の紙ベースから Microsoft Forms を使ったオンライン形式に変更して実施した。その結果、全般的には学部専門科目、外国語科目とも満足度が高いことが示された。一方で、個別のコメントから英語科目に対する不満、オンライン授業の改善希望、コロナ禍で留学できないことに対する不安が明らかになった。英語科目に関しては 2022 年度より新カリキュラムを実施し対応する。オンライン授業に関しては FD 研修会を開くなどして改善に努めている。留学に関しては代替措置（オンライン留学、国内で異文化を体験できる科目等）を実施予定である。今後これらの取り組みを進め、改善に努めたい。

さらに、2020 年 8 月に Microsoft Teams を用いた遠隔授業に関するオンライン FD 研修会を開催した（参加者 71 名）。また、2020 年 12 月にオンライン多読学習システムの活用法に関する FD 研修会を開催した（参加者 15 名）。今後もこのような FD 研修会を開き、学部教育の質向上を図りたい。

父母懇談会は、コロナ禍の状況に鑑みオンライン開催とし、2020年11月7日（土）～30日（月）の期間、オンデマンド配信を行った。コンテンツは学部長挨拶、学部教育に関する説明、キャリアセンターによるキャリア支援および本学部就職状況の説明で構成し、約130件のアクセスがあった。

III. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて研究機関誌『GR』（論文、研究ノートなど）をこれまで年2回発行してきたが、2020年は10月の発行を見送り、3月に第15号と第16号との合併号を刊行した。大学教員は教育と研究とが二大任務だが、新型コロナウイルスの世界的パンデミックという事態に対応するため、教育を最優先することとなった。従って、第15号を無理に発行するよりは、第16号と合併して充実した紀要を出すことにした。

2020年12月10日（木）には第8回グローバル地域文化学会学術講演会「オセアニアの少数言語」を主催し、千田俊太郎（京都大学大学院文学研究科准教授）による講演がなされ、学内の参加者を中心に活発な質疑応答が行われた。

また、2021年1月15日（金）にZoomによるオンライン講演会「アメリカ大統領選挙とBlack Lives Matter—勝敗を分けた社会運動に迫る—」を開催し、和泉真澄（同志社大学グローバル地域文化学部教授）、南川文里（立命館大学国際関係学部准教授）、坂下史子（立命館大学文学部教授）、武井寛（岐阜聖徳学園大学外国語学部准教授）、山中美潮（同志社大学アメリカ研究所特別研究員）による講演がなされた。

また、教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本研究者データベースを参照されたい。

(URL: <https://kendb.doshisha.ac.jp>)

IV. 国際交流活動

コロナ禍の影響で学部独自の国際交流活動もいつもより少なくなった。

学部独自の海外インターンシップと語学プログラムはオンラインでも実施されず、休講となった。

海外からの受け入れ研究員はアーモストフェローだけであった。Elizabeth Sturley (エリザベス・スターリー) 氏は2020年9月1日から2021年8月31日までアーモストフェローとして学部に貢献した。

V. 社会貢献活動

大学の枠を越えた本学部教員の活動として以下のものがあった。

浅羽祐樹教授：講演「朝鮮語資料（政治学分野）における「国蔵書」の構築に向けて」（国立国会図書館関西館、2021年3月5日）。パブリックコメント「読売新聞」（2020年6月9日）、「The Japan Times」（2020年8月7日、9日、11月20日）。Abema TV「Abema Prime」に出演（2020年7月31日）。

Felicity Greenland 准教授：京都国際歌声・ウクレレ・舟歌クラブのファシリテーター。NHK、Eテレ「猫のしっぽ カエルの手」に出演（2020年7月25日）。

亀谷百合佳助教：フランス映画『シーズン・イン・フランス』（出町座、2020年8月28日～9月3日）のパンフレット制作に協力。

小野文生准教授：グローバル地域文化学会小規模講演会「「あの日から」のクロニクルー東日本大震災・原発事故からの10年を考える」（オンライン、2021年3月27日）の企画。

Aysun Uyar 准教授：オープンキャンパスにおいて模擬講義（2020年6月26日）。

Katerva Awards、Human and Economic Development Panel の Expert Panel Member。

和泉真澄教授：録画ビデオによる講演「Dissecting the Complex Relationship among Loyalty, Freedom, and Security in “The Age of American Concentration Camps”」（A Community Virtual Pilgrimage、2020年8月10日）。オンライン講演「移民でつながる Vol.1」（和歌山アメリカ村、Canada Museum、2020年12月28日）。グローバル地域文化学会小規模講演会（シンポジウム）「アメリカ大統領選挙と Black Lives Matter—勝敗を分けた社会運動に迫る」を企画（2021年1月15日）。

立林良一准教授：日本スペイン協会の西検委員会委員。

VI. 学生支援活動

①学習支援：外部の外国語（英語・初修外国語）検定試験の受験に際し、受験料の半額補助を行なっている。また、TOEFL ITP®に加えて、前年度に引き続き IELTS の集中対策講座（オンライン）を実施するなど（検定試験の団体受験は中止したが）、新型コロナ感染拡大により留学の機会が失われるなか、語学力向上のための機会をさまざまな形で提供した。

②キャリア形成支援：「グローバルキャリア・シリーズ」と銘打った本学部生向けのキャリア説明会を計 4 回開催した。新型コロナ感染拡大の状況に鑑み、第 1～3 回は Zoom で、第 4 回は Teams でオンライン開催した。また、当日参加できなかった学生の要望に応え第 1～3 回はオンデマンドでも動画配信している。

第 4 回は、各種メーカー・総合商社・IT 企業・旅行会社・サービス業・公務員 等さまざまな業種に内定している参加者 18 名（内、体験談発表者 6 名）の本学部 4 回生に就職活動の体験談を語ってもらった。また、各講時の後半は個別相談の時間を設け（各講時 6 つのチャンネルに分かれて実施）、就職活動に向けての不安や疑問を直接先輩にぶつけることができた。

第 1 回 長岡学志氏（TNWORKS 代表）「グローバルにキャリアを考える—日本とモンゴルをつなぐビジネス—」（10 月 20 日）参加人数：25 名（アンケート回答者数）※Zoom アクセス者数不明

第 2 回 末岡加奈子氏（在ギリシャ日本国大使館）「地球のどこかで生きる—世界の様々な地域で何を見、何を感じてきたのか—」（11 月 24 日）参加人数：52 名（Zoom アクセス者数）

第 3 回 加茂佳彦氏（同志社大学嘱託講師、元外務省・駐 UAE 特命全権大使）「国際社会で活躍する」（12 月 15 日）参加人数：50 名（Zoom アクセス者数）

第 4 回 本学部学生（2017 年度生）「先輩に聞いてみよう！GR 学部生の就活体験談」（1 月 14 日）参加人数：13 名（アンケート回答者数）※Teams アクセス者数不明

以上